

令和4年度 第1回屋久島世界遺産地域科学委員会議論の整理

資料 1

課 題	主 な 意 見	関 係 機 関	回 答 等
議事(4)	【資料4-2】 令和4年度世界遺産地域モニタリング調査等計 分布モデルの説明変数に暖かさの指数を使うことは、統計学的に推奨できない。(矢原委員長)	◎林野庁	気温に関する説明変数について暖かさの指数などの加工データは使わないようにしたい。
議事(6)	【資料6-2】 世界遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング項目等 (環境省)	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	今回、評価をしていくなかで、基準の見直しなどモニタリング計画の改定にも反映していきたい。
	いつを基準にするかによって、評価が変わる(柴崎委員) 評価基準にしている年とその基準がぶれて、評価が変わるようであれば混乱を招く。必ずしも基準年を登録時や特定の時期に限定して評価しなくてもよいのではないか。(松田委員)	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	評価基準の設定から始める必要があるかもしれないが、ご意見を踏まえて、できるものは評価をし、難しいものは状況把握を継続していきたい。 定性的な評価を、評価シートに記載していく。評価シートが重要であり、その内容をどう結論付けるか、ご意見いただきたい。
	モニタリング項目があるのに、評価(案)が白なのはおかしい。変化傾向から評価するべき。評価基準がなくても、科学委員会として定性的にでも評価するべき。(土屋委員)	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	評価するのであればきちんと指標に基づいて議論していく必要はある。(柴崎委員)
	高層湿原など、評価時点を10年より前にさかのぼらねばならない場合、データ不足で評価が難しい項目があり、そのような項目は文章でできるだけわかりやすく記述するとよいのではないか。(下川委員)	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	評価シートは膨大になるため、要約した表があるとよい。資料6-2のスペースに評価の要点を記載したり、増減傾向などの情報を入れるのはどうか。(矢原委員長)
	新たなモニタリング項目も含めて、モニタリング計画の見直しも必要である。(柴崎委員)	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	防災の評価は必要。(矢原委員長)
	高層湿原の保全対策検討会やヤクシカワーキングは、問題があるから設置されているため、状態の評価が緑なのはおかしい。(柴崎委員)	◎林野庁 環境省	現行計画については精査していきたい。次回委員会でモニタリング計画の過不足等の意見を頂きたい。
	高層湿原の保全対策検討会やヤクシカワーキングは、問題があるから設置されているため、状態の評価が緑なのはおかしい。(柴崎委員) 利用状況の把握については、混雑現象の発生や、し尿の処理問題等の発生が起こるので評価基準を設けた方がよい。例えば一番混雑した2008~2010年の300人以上来訪者があった状況を基準として、指標化する努力をしてもとよいと思う。奥岳についても同様。(柴崎委員) 利用が集中することは里でも特定の観光地でも問題であるため、急激な変動のある場所があるかないかという指標でもよいから示した方がよい。(柴崎委員)	◎林野庁 環境省	評価時点をどこまで遡れるのかという問題もあるが、高層湿原保全対策検討会やワーキングで検討したい。 評価基準の設定から始める必要があるかもしれないが、ご意見を踏まえて、できるものは評価をし、難しいものは状況把握を継続していきたい。 定性的な評価を、評価シートに記載していく。評価シートが重要であり、その内容をどう結論付けるか、ご意見いただきたい。

課 題	主 な 意 見	関 係 機 関	回 答 等
	<p>ある意味政治的な問題も入ってくるので、基準という意味ではすぐには決まらないと思う。入山者数の増減を少なくとも書いて、科学委員会でそれに対して懸念があるとか、それなりの見解を述べるということは基準なしにできる。(土屋委員)</p> <p>基準がないと評価できないというジレンマがある。入島者数や登山者数の増減は、客観的な数字で判断できるが、それが改善なのか悪化なのかになると、価値観に伴う判断の基準を合意しない限りは、行政が、いいとか悪いとか決めるのは適切ではない。(矢原委員)</p> <p>モニタリングしているのならばトレンドは書けるのではないか。(松田委員)</p> <p>すべて評価基準を忠実にやることは不可能。明らかに過剰利用して混雑が発生した時期はあったと思う。それゆえに様々な検討会が立ち上がった経緯がある。その時の状況がまずいのではないかという、非常にゆるい基準ではあるが、それを設定することは決して非合理的ではないと思う。(柴崎委員)</p> <p>数値基準が全てではないので、最後は総合的に評価することになる。それぞれが理想とする数値が違って、皆が明らかに過剰と判断したならば評価は可能。(松田委員)</p> <p>携帯トイレについて、所持するだけではあまり意味がなく、使用しているかどうかを把握した方がよい。次の段階で評価に入れることが重要。(柴崎委員)</p>	<p>◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	
議事(7)	<p>【資料7-2】 縄文杉前の低木の取り扱い(環境省)</p> <p>【資料7-4】 世界遺産地域管理計画の改定案(たたき台)(環境省)</p>	<p>◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>課題については、評価シートの「今後に向けた留意事項」に記載しており、モニタリング計画の改訂に反映させたい。</p> <p>無秩序にならないように、ある程度の基準を設けて、それにとって対応できるように、もう少し情報を整理させていただきたい。</p> <p>世界遺産登録後にIUCNの指摘を受けて、拡張して、特別保護地区に格上げしたエリアが世界遺産エリアから外れているという状況。それらの整合をとるだけでは多分十分な理解は得られないと感覚的に認識。 どういう場所が登録時と比べると自然度が上がっているなど、社会状況の変化も踏まえて国立公園のゾーニングも検討していないといけない。遺産地域の拡張についても検討の必要性は認識している。</p>

課 題	主 な 意 見	関 係 機 関	回 答 等
	<p>ラムサール条約湿地である永田浜やユネスコエコパーク等との関連性や、それらと連携した管理、情報発信、普及啓発など盛り込んではどうか。世界に向けて発信できるよいチャンス。(井村委員)</p> <p>屋久島の絶滅危惧種の保全を書き込んでほしい。そのために、シカの影響を受けていながら、まだ1か所も柵で囲われていないような種については、きちんと柵で守っていくというようなことは書き込んでおく必要がある。(矢原委員長)</p> <p>屋久島の絶滅危惧種がIUCNのレッドリストにきちんと登録されていないという問題がある。その登録作業と合わせて、将来的に生物多様性の点でも、世界遺産の価値として位置づけられるよう、管理計画に書いていく必要がある。(矢原委員長)</p> <p>屋久島学ソサエティについて、他にも民間の研究組織や取組の組織がある中で、地域との連携・協働の部分で個別に取組を拡充と記載するのはバランスを欠くのではないか。(土屋委員、柴崎委員)</p> <p>屋久島学ソサエティの役割としては、屋久島に関わる多くの研究者の交流の場であり、行政で対応できていない屋久島での調査研究の後押しをしているところにある。屋久島学ソサエティを出すかどうかというよりも、調査研究をしっかりとっていくということがモニタリングとは別に書かれる必要がある。(矢原委員長)</p> <p>入れた方がよいと思うが、あくまで皆が合意しての話である。入れない方がよいという方が多ければ入れられないことになる。(松田委員)</p> <p>屋久島学ソサエティはここにあってもおかしくはないと思うが、屋久島環境文化財団は入れないのか。(鈴木委員)</p>	<p>◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p> <p>◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p> <p>◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>修正にあたって、ご意見を参考にさせていただく。</p> <p>修正にあたって、ご意見を参考にさせていただく。</p> <p>修正にあたって、ご意見を参考にさせていただく。</p>
議事(8)	【資料8】 屋久島世界自然遺産地域における高層湿原保全対策検討会における検討状況	環境省 ◎林野庁	管理計画では保全対策の基本的部分はしっかり押さえるようにし、環境省と林野庁とやり取りをしながら検討委員の方からの意見も踏まえつつ、盛り込んでいきたい。
議事(9)	その他	◎環境省 ◎林野庁	屋久島の遺産登録30周年という1つの節目もきっかけにしつつ、本省とも相談していきたい。

※委員会での回答は黒字、委員会後の追記は青字で記載